

復興研究会報告

No.28(令和2年度 第1号)

発行
岩手県立大槌高等学校
広報班

岩崎星羅 岩間里衣 岡本太郎
君島真叶 佐々木心 佐々木結菜
古川真愛 八幡大翔

発行日：令和2年7月30日

今年度第1回定点観測

5月30日に第22回の定点観測を行いました。今までは2日間かけ活動していましたが、今回は新型コロナウイルスの影響により、1日ですべての地点を撮影しました。参加した皆さんの声をご紹介します。

今回は前回と同じ場所だったが、前回と違うところがあった。それは、町の変化が少なくなったことだ。今回変化したと思ったことは、葉の色や量、そして看板があるかどうかという違いだけであった。そのため、大槌町も町づくりが進み完成してきているのだと気づくことができた。
(3年女子；町方A)



工事中だった家が完成していたり、埋め立てが進んでいた。駅は前よりも人や車が多く感じた。班のみんなと先生方と協力してスムーズに写真を撮ることができたので良かった。今回もまた、大槌町の変化が見られて良かった。次も大槌の変化が見られるのが楽しみだ。
(2年女子；町方C)

町の移り変わりの様子を自分の身で感じられるよい機会だったと思う。同じ場所を同じ角度で撮影するのはとても大変だと思ったが、わからないことを先輩方が教えてくださったり、気さくに話しかけてくださるなど、とてもありがたかった。次回は今回よりもあまり先輩方ばかりに頼らずに、自分から積極的に行動したい。
(1年女子；町方B)



今回初めて参加した定点観測で、どう動けば良いのか不安な所もあったが、先輩たちのご指導や引率の先生のおかげで何のトラブルもなく終わったのと、資料で見た大槌の風景と、今の風景を見比べて、少しずつ大槌も復興に向かい進んでいるんだと実感できて良かった。
(1年女子；町方E)

初めての定点観測でわからないところが色々あったが班長やカメラのサポートをしっかりとることができた。今回は、町方だったので次回は違う場所にも挑戦したい。その時は、今回よりもスムーズにできるよう、サポートしていきたい。今回メンバーと協力する楽しさ、難しさがわかった。自分も班長になる前にメンバーをまとめる力を身につけていきたいと思う。こうして大槌の姿を写真として記録していきたい。

(2年男子；町方D)



画：武藤沙季

1年生の頃から赤浜班に参加しているので年々変化しているのを見るのがとても楽しかった。新しい道路や家が出来ていたりして、どんどん新しくなっているなど思った。今日は天気もよく、定点観測日だった。とてもきれいな写真を撮ることができた。

(3年女子;赤浜)



初めて定点観測に参加した。安渡を歩きまわり、たくさん写真を撮った。2~3年前の写真と見比べながらとるのがとても興味深く、楽しかった。新しい建物が建っていたり、きつい坂を上った後にきれいな景色を見て、定点観測にはとても魅力が詰まっているなどと思った。

(3年女子;安渡)

去年の町の風景と比べて少し印象が変わり復興などが少しずつ進んできていることを実感した。震災があったことを忘れないために石碑などが設置されていて良いと思った。復興などが進んでいくにつれ通れるところと通れないところが出てくるのでちゃんとチェックをしようと思った。

(3年女子;吉里吉里)



防災マップ学習会

5月29日放課後に防災マップの勉強会を行いました。5名の生徒が自分の住んでいる地区の危険個所の確認や消火栓の設置位置を知っておくことの重要性などを学びました。参加した皆さんの声をご紹介します。

改めて自分の家からの避難場所が分かったのでとても良い機会だった。自分の住んでいる周辺ではなく、吉里吉里やおしゃっち周辺の避難場所を調べてみたいし、指定された避難場所以外の高台や安全な場所を見つけてみたい。(2年女子)

避難所までどのように逃げるのかあらためて確認することができた。いつ、どこで地震がおきるかわからないので、しっかり自分で考えて行動できるようにしたい。今までは、自分が逃げるといふことしか考えていなかったけれど、自分だけではなく、ほかの人も助けられるように考えて動きたいと思った。今回学んだことを忘れないようにしたい。

(1年女子)



画: 岡本太郎